TRAVEL NOTE

旅のしおり

ピースボート × 明星学園 × 国際交流クルーズ











「世界」という本を開こう

明星学園中学校と国際NGOピースボートがコラボして作る「国際交流クルーズ」、記念すべき第1回目の航海がいよいよ始まります。

自分の慣れ親しんだ空間から足を踏み出すのは勇気のいることです。知らない土地、知らない言葉、知らない人々…。不安もたくさんあることでしょう。さらに、今はネットを介していつでも海外の情報を手に入れられる時代。誰でも簡単に海外に「行った気」になることのできる時代です。日本ではわざわざ旅なんて面倒くさいことはしたくない、という人も増えていると聞きます。そんな中、この国際交流クルーズに参加し、自分の足で外の世界に踏み出そうと思ってくれた中学生たち、きみたちはすばらしい！

このプログラムを企画している大人たちは、どんなにIT技術が発達したところで、生身での体験に敵うものはないと信じている人たちです。古代の遺跡を見て悠久の歴史に思いを馳せること。圧倒的な自然を前に言葉を失うこと。生きた人を目の前にして分かりあおうとすること。うまく伝わらなくて気まずいこと。もっといろんなことを伝え合いたい、ともどかしく思うこと。そして思いを共にできる喜びを感じること。…こうした本物の体験を、若いうちにたくさんたくさん、それはもうたくさん、してほしいと思っています。そしてさまざまな人と交流を深める中で、お互いの「違い」に驚くと同時に、たくさんの「共通すること」も発見してほしいと願っています。

“The world is a book and those who do not travel read only one page. (世界は一冊の本だ。旅をしない者は最初の1ページだけを読んで本を閉じてしまうようなものだ)”とはアウグスティヌス（キリスト教初代教父）がかつて言った言葉だそう。分厚い本のページをめくり、未知の世界に飛び出した先には幾多の発見があることでしょう。中学生たちがこの夏、たくさんの出会いとともにどんなことを感じて帰ってくるかが楽しみです。

高山瑤子



直接訪れ、出会うことの意味

コロナ禍を経て、オンラインで繋がることへのハードルはかなり低くなった。その気になれば、日本にいながら世界中のどことでもつながり、まるで現地にいるような気分を味わうこともできる。そんな時代に直接訪れることの意味はなんだろう。

思い出すのは、初めて短期留学の引率でタイを訪問した時のことだ。街中のあちこちに分別されずに色々なゴミが入れられているゴミ箱が置いてあり、内心「汚いなあ」と思っていた。実は、タイの貧困対策の一環で、ゴミを分別する仕事を作っていることを教えてもらった。また、街中のお店で食事をしていると、花や乾物などの物売りをする子どもたちに遭遇することが何度もあった。事前に、それを買うことは後ろにいる搾取する大人たちの利益になってしまうから、決して買ってはいけないと教えられていた。だから、私は無視することに何の抵抗もなかった。そんな中、タイ人のとても尊敬する人が小銭を出して買っていた。「だって売れないと帰れないかもしれないでしょ」と軽やかに笑って、その買ったものを私たちにくれた。私はハッとさせられた。私はどうするのか、実は未だにタイを訪れるたびに戸惑い、悩み続けている。でも大切なのは、一人で抱え込むのではなく、その迷いや葛藤ごと伝え、「あなたはどう思う？」と、受け止めてくれる仲間たちと分かち合うことなのだと思うようになった。

こうして、私自身が現地で知り合った人と同じものを見て触れ合うことで、それまで概念としてしか受け止められていなかった「貧困」などといった社会問題が、グッと自分に引き寄せられリアルなものとなった。それだけではない。日本に帰り街を歩いていると、何か冊子のようなものを掲げて立っている人に目が留まった。ホームレスの人が『ビッグイシュー』という雑誌を売り自立を目指していた。それまで見過ごしていたものが、違う環境に身を置いたことで見えるようになった。気づきは、現地だけで得られるものではないのだなと思った。

実際に自分でその地に立ち、そこで誰かと出会い、顔が見える関係ができる。誰かと一緒にいると、同じものも見え方、感じ方が違うことに気づく。同じことに戸惑い、面白がれることにも気づく。そうすると、日常の自分の感じ方が変わる。せっかくのチャンスなので、迷ったら勇気を出して出会う人に声をかけてみよう。まずは挨拶からでもいい。そして、そんな出会いの中からさまざまな「きっかけの種」を一緒にたくさん見つけられると嬉しい。

小畑典子





旅の目的

- 異文化体験を通して先入観・偏見のない他者理解・多様性理解を育む
- 複数の寄港地への訪問を通し俯瞰的（ふかんてき）にアジアの国々と日本を見つめるきっかけをつくる
- 日本のことや日本に暮らす自分を見つめるきっかけをつくる
- 慣れ親しんだ環境や親元から離れて生活をすることで自立に向けた経験をする



心構え

「旅の目的」を達成するため、この旅をとおして、参加者する中学生たちには以下のことを心構えとして持っていてほしいと思います。

たくさんの人と話そう

自分の慣れ親しんだ人だけでなく、話したことのない人とも積極的にあいさつや会話をしてみよう。特に今まで自分が関りを持つことのなかったような人とも積極的にやりとりしよう。

新しいこと、違うことにオープンになろう

船旅の中では自分にとって新しいことや驚くこともたくさんあるでしょう。中には自分にとってポジティブではないものもあるかもしれません。たとえそうだったとしても、すぐに否定せず、まずは「こういうものもあるんだ」と受け止めてみよう。そこから学びが始まります。

自分とのつながりを意識してみよう

自分にとって未知であればあるほど、自分と遠いと感じるかもしれません。でも、意外と自分と世界はつながっています。出会った人や物が自分と「全然ちがう！」と感じた時こそ、「日本ではどうかな」「自分はどうかな」と考えてみよう。新たな発見があるかもしれません。

他者を尊重し、責任ある行動を取ろう

大勢の人と場を共有していることを忘れずに、船の上で一緒に過ごす人とも、寄港地で出会う人とも、どんな時もお互いを尊重し合い、気持ちよく過ごせる空間を作ることを意識しよう。人が不快になるような言動や迷惑をかえりみず大勢で騒いだりすることも絶対にしてはいけません。

自分のことはできるだけ自分で解決しよう

分からないことがあったり日常生活の困りごとがあるとき（例えば部屋でお湯が出ない、など）、はじめからスタッフや先生を頼るのではなく、まずは自分で解決できないか挑戦してみよう。自分では解決できない困りごとのときは遠慮せず大人に相談してください。

諸注意

船のルールを守る

船の上では思わぬ行為が命にかかわる事故につながることもあります。船のルール（避難訓練での注意事項、入ってはいけない場所、デッキの使い方など）を絶対に守ること。

時間厳守

自分のスケジュールはしっかり管理し、決められた時間に絶対に遅れないようにしよう。

22時就寝

このプログラムに参加する中学生の就寝時間は22時です。それ以降には自分のキャビンから出ないこと。また、自分だけでなく同部屋の人の体調にも関わるので夜更かしをしないこと。

健康管理

一日三回の食事、起床、就寝など、生活のリズムを自分で作り、体調をしっかり管理しよう。もし体調が悪いことがあれば必ずスタッフか教員に伝えてください。

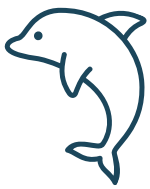
身の回りの管理

持ち物の管理、キャビンの整理整頓、洗濯など、自分の身の回りのことは自分でしっかりと管理しよう。特に他の人と寝起きを共にするキャビンではお互いに気持ちよく過ごせるよう、配慮して過ごそう。

毎日のふりかえり

一日が終わったら必ずその日のことを振り返り、記録を残そう（このしおりのP20〜）。きちんと振り返りをして翌日に活かしていくことで、この体験がより良いものになっていくはずです。しおりは翌朝のHRで先生に提出し、チェックをもらうようにしてください。

船の上では必ず以下のものを持ち歩くようにしよう
筆記用具、プロジェクトノート、しおり（この冊子）、時計



日程表

明星学園国際交流クルーズ
8/16～8/28 12泊13日

	日付		寄港地	
1	8/16 金	10:00 12:00	横浜大橋さんターミナルに集合 パシフィック・ワールド号乗船 横浜港出港	 船内泊
2	8/17 土	17:00	神戸港出港	船内泊
3	8/18 日		洋上プログラム	船内泊
4	8/19 月		洋上プログラム	船内泊
5	8/20 火		洋上プログラム	船内泊
6	8/21 水	10:00 22:00	深圳（中国）入港 プログラムツアー 深圳出港	 船内泊
7	8/22 木	6:00 16:00	香港入港 プログラムツアー 香港出港	 船内泊
8	8/23 金		洋上プログラム	船内泊
9	8/24 土		洋上プログラム	船内泊
10	8/25 日		洋上プログラム	船内泊
11	8/26 月	9:00 14:00	シンガポール入港 パシフィック・ワールド号下船 1日目プログラムツアー	 ホテル泊
12	8/27 火		2日目プログラムツアー	ホテル泊
13	8/28 水	4:30 8:00 15:55	ホテルチェックアウト・出発 SQ632にてシンガポール・チャンギ 空港発　空路 東京へ 羽田国際空港ターミナル3 到着	

記載の時間は当日の天候や現地状況により
変更される場合があります

